



カトリック長崎大司教区 広報委員会 長崎大司教館内 長崎市橋口町1-1

教皇様のために 祈りましょう

呼吸器感染症のため2月14日に ローマの病院に入院された教皇フランシスコは、その後3月23日に退院。

浦上で叙階式 4年ぶりに新司祭誕生

3月20日(木)10時30分 浦上教会新助祭。叙階式は中村倫明大司教の主司式、高見三明名譽大司教と100人余の司祭団の共同司式のもと行われ、韓国よりご家族や出身小教区などから新司祭と鹿子前教会出身祭方と信徒の皆さん約1



(右の写真) 中村大司教から授けられる洪師。④叙階式の終わりに洪師から夫婦で祝福を受け涙ぐむ姉・英基(ヨンキ)さん。⑤退堂して司祭団に拍手で迎えられる洪新司祭と廣田新助祭。

20人が参加した。また、洪師が神学生のときに2年間司牧実習をした福岡教区・久留米教会から約40人、助祭としてこの1年間お世話になった福江教会から約40人が駆け付け、大浦教会や浦上教会の信者、国内外、教区内外から集まった多くの参加者が喜びを分かち合った。長崎教区における司祭の叙階は2021年以来4年ぶりで、中村大司教が22年に長崎大司教に着座してから初めてのことであった。



「昨日の夜寝るときに、こんな人を神様は選んで、こんな人を司祭にするためにどのような方々の祈りと関わりが必要なのか、ここに座っている方々、皆さんの祈りを何回も何回もいただいで、(司祭叙階)に来ることができました。本当にありがとうございます」と話し、韓国語でも感謝を語った。中村大司教からも祝辞が述べられた。

3月17日(月)19時から大浦天主堂で日本の信徒発見の聖母記念ミサが行われた。長崎教区主催、長崎南地区評議会担当。ミサは、中村倫明大司教の主司式、高見三明名譽大司教と約20人の司祭団の共同司式により行われ、東京など他教区からの参加もあり、司祭、司祭、修道士、信徒ら計約250人がともに祈った。

3月17日は以前は「記念日」だったが、教皇庁の認可を受けて日本の教会固有の「祝日」となり、日本の教会は信徒発見150周年を迎えた2015年から「日本の信徒発見の聖母の祝日」としてこの日を祝うようになった。

3月17日は以前は「記念日」だったが、教皇庁の認可を受けて日本の教会固有の「祝日」となり、日本の教会は信徒発見150周年を迎えた2015年から「日本の信徒発見の聖母の祝日」としてこの日を祝うようになった。

カリタスジャパン ミャンマー地震救援募金 受付開始 (4月3日付カリタスジャパンのサイトから) カリタスジャパンは「ミャンマー地震救援募金」の受付を開始しました。

金は、被災地域で行われる救援活動のために活用させていただきます。募金受付口座は次の通りです。

「ほしかげ」 私に住んでいる地域では一年を通してイノシシがよく出没する。そのためイノシシ用のわながあつたり、畑には厳重な柵が張り巡らされたりしている。全国ニュースにおいても人里への出没による人身被害や農業被害が報道されており、私たち人間にとっては相いれない存在であるだろう。

教区生涯養成委員会主催 2025年度カトリック公開講座のご案内

- 講師 永井徳三郎氏(長崎市永井隆記念館館長)
内容 被爆80年「永井隆博士の信仰と平和」
日時 2025年6月7日(土)10時~12時
場所 浦上教会またはオンライン受講(定員あり)
参加費 無料
申込先 カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会

「豊かな聖年をあゆむため」をテーマに開催しておりますカトリック講座は、第4回公開講座におきまして「永井隆博士の信仰と平和」について、永井徳三郎氏にご講話をいただきます。

3月17日日本の信徒発見160周年 中村倫明大司教による説教(福音ヨハネ19・25-27)

変わることもない「同じ」を 伝えていきましたよう

♪
昨年(2025年)の12月8日の日曜日、中町教会において、クリスマスに向けての「子ども聖歌の集い」がありました。

たくさん参加教会があった中で、優秀賞に輝きました滑石教会の子どもたちが、このミサに参列してくださっています。皆さん、拍手をお願いいたします。

♪
まず、あの時、滑石教会の子どもたちが歌った歌をどうぞお聴きください。曲名は「ワレラノムネ アナタトオナジ」です。

♪
遠い東の国日本の 長崎大浦に
教会を建てた プチジャン神父
この国のどこかに生きている 神の子
らに
会えるその時を 待ちわびながら
われらのむね あなたとおなじ はる
かな時を超えて
生きよう 伝えよう キリストの愛を



中村大司教の説教のはじめと終わりに歌を披露した滑石教会の子どもたち。ミサの様子はライブ配信された。(2025年3月17日大浦天主堂)

司祭の方は、信仰を伝えるためにどうにかして日本に入ることができるようにと、ずっとその機会を狙っていました。そして、どうにかして信徒を見つけたために教会を建て、その教会の正面には、十字架だけでも教会とわかるのにお店の看板のように日本語の大きな字で「天主堂」と記し、さらに、当時3つあった尖塔全部に十字架を立て、それを金色にしました。

一方、信徒たちは、まだまだキリスト教禁令が敷かれていた中、見つかったら捕らえられ殺されるかもしれないという状況にあっても、命の危険を顧みず、この教会にやってきました。それまでだとして、キリシタンたちは「信仰を捨てれば、命は助けてやろう」と役人たちから言われようとも信仰から離れず、長い時間と迫害の歴史の道のりの中を、信仰のバトンを受け渡して続けた。次の世代に次の世代へと受け渡し続けていたんです。



160年前のあの出来事は、司祭側の思いは信徒たちから離れていかなかったし、信徒側からだって司祭たちや教会から離れていかなかったことの証しでした。「ワレラノムネ アナタトオナジ」あの言葉は、信徒と出会った司祭の側の言葉でもあるんです。

あれから、160年たった今、「若い人たちは教会を離れていく」ということを口にした、耳にした、教会にやってくる若い人たちが減ったというんです。でも、本音は、「教会の方が若い人たちから離れてしまっているんじゃないか」ということも言われています。

♪
そういう中で、滑石の子どもたちは、こうやって、平日なのに、またこんなに遅い時間、ミサなのに、大浦から遠いのに、やって来ている。それは、ご両親や教会の皆さんが、この子どもたちとともに寄り添ってくださっているからです。そして、このミサに「行かないか」「一緒に行こうよ」「行って

聖歌を歌わないか」と声をかけてくださったからです。

わたしたちは、離れていませんか。子どもたちから若い人たちから、周りの人たちから、離れていませんか。寄り添っていませんか。声をかけていますか。交わっていませんか。問い直していきたいなと、そう思います。このわたしも含めて。

いま一度、わたしたちの信仰が繋がれていった歴史を思い起こしましょう。あの160年前の出来事を思い起こしましょう。

司祭も信徒も、人々はお互いを待ち望み、お互いに歩み寄り、そして、お互いに声をかけるチャンスをつかみ、準備し、実際に声をかけていくことを実行に移していったんです。それが「ワレラノムネ アナタトオナジ」の声かけであり、そして生き方でした。

この「同じ」は、もともと神さまの言葉であり、その生き方でした。わたしたちと「同じ」人間となつてくださったイエスさまは、「わたしと父とは一つである」(ヨハネ10・30)とおっしゃりながら、御父と御子の言葉と行いは「同じ」であることを何度も語られました。

例えば、「わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行おう」(ヨハネ5・30)、「わたしは天から降つて来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行つたためである」(ヨハネ6・38、8・29)、「わたしの教えは、自分の教えではなく、わたしをお遣わしになった方の教えである。わたしは父が命じられたままに語る」(ヨハネ7・16、8・28、12・50)、「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた」(ヨハネ15・9)。

*聖書箇所はいずれも参照

この「同じ」神さまのみ旨は、わたしたちが救われるということでした。そのために、イエスさまはご自分のいのちをささげ、わたしたちのためにささげていかれた。そのことをよく知っている。そして、それをいつか教会に来るたびに目の前にしている。

♪
マリアさまのみ旨だつて、神さまと「同じ」でした。お告げの時、神さまの思いを伝えた天使に答えます。「お言葉通り、み旨のままに、なりますように」「わたしの旨は

神さまの旨と同じです」

これがマリアさまの言葉であり、生き方だったんです。

そして、このマリアさまとわたしたちに、イエスさまご自身が、ご自分の胸の内にある「同じ」を明かされたのが今日の福音の箇所(ヨハネ19・25・27)でした。十字架の上にて、わたしたちにイエスさまはおっしゃいます。

「これがあなたの母です。わたしの母と、あなたの母と「同じ」です」

そしてマリアさまにも、「これがあなたの子です。わたしはあなたの子、ここに居る人たちは「同じ」あなたの子です。みんな同じ神さまの子ども。どうか、マリアさま、お母さん、この人々のことをお願いします。この子どもたちとともにいてください。同じ神さまの子ども」

160年前の人たちも、このことをよく伝えていました。

♪
ですから、あの時、「神父と信徒の「同じ」」を確かめた浦上の信徒たちは、そのもう一つの大切な「同じ」を確かめたかったんです。

浦上の人たちは尋ねます。「マリアさまのご像はどこ」

そしてプチジャン神父様に案内してもらったマリアさまを見て、人々は嬉しうて言いました。「おん子さまを抱いておられる」

マリアさまに抱かれているおん子さまを見て、それと「同じ」ように、このわたしたちも神さまの子どもとして、マリアさまの子どもとして抱きしめてもらっているという、その「同じ」を確認したんです。

信徒発見のマリアさまのお姿は「どんなことがあつても、わたしたちはあなたたちとともにいるよ。あなたたちを見捨てないよ。抱きしめてくれるよ。いつもともにいる」そういう、神さまとマリアさまのわたしたちへの声かけだったんです。

♪
どうぞ、今日も、神さまやマリアさまの「同じ」この思いや生き方、そして160年前の司祭と信徒の「同じ」この言葉と生き方を確かめましょう。

♪
そして、今日のわたしたちも、同じく一つになって、いつになっても変わることのない最高に「同じ」を「同じ」これをちゃんと伝えていきたいと思います。

聖年に行く ローマ・アッシジ・ルルド巡礼

期 間 2025年9月1日(月)~9月13日(土)
代 金 733,000円(35名以上)
※燃油サーチャージ・各国諸税は含みません
同行司祭 高見 三明 名誉大司教(カトリック長崎大司教区)

2025年の聖年(希望の巡礼者)はわたしたちの出かけの年です。この旅が神様の計画と世界の歩みとして、心を向ける励みとなり、神の民として歩む機会となります。カトリック長崎大司教区 大司教 ペトロ中村倫明

企画 カトリック長崎大司教区 手配 有限会社アミタイムトラベル

旅程などの詳細は各小教区へのご案内をご確認ください

♪
「いまでも主は、マリアさまは、わたしたちとともにおられます。どんなときも、ともにいてくださいます。わたしたちは愛されています」この変わらない「同じ」。

♪
時代が変わっても、歴史が動いても、この「同じ」の声をかけを、この信仰をまだ知らないわたしたちの家族や友だちにも、周りの方々にも、具体的にしっかりと行っていくながら、現代における信徒発見、司祭や修道者召命発見、また福音宣教を行うことができようという願いが、このミサを続けて祈ってきたいと思えます。

♪
そんな思いを込めて滑石教会の子どもたちが再び歌います。「ワレラノムネ アナタトオナジ」の4番です。どうぞ、「これからは人々に寄り添って声をかけていくぞ」という決意をもって聴きください。

♪
親から子へ子から孫へと 託された信仰の灯が わたしの胸に
どんな時もどこにいても 離れずに
ともにおられるキリストと 歩いていこう
われらのむね あなたとおなじ はるか
な時を超えて
生きよう 伝えよう キリストの愛を
生きよう 伝えよう キリストの愛を

♪
生きよう 伝えよう キリストの愛を

人事異動・任命

()は前任地、()は備考など

教区

(5月4日着任 (1)は3月20日叙階後着任)

- 岩崎 康彦 馬込主任 (佐々主任)
- 紙崎 新一 那覇教区・石川主任
- 平本 義和 佐々主任 (長与主任)
- 岩崎 晋吾 天神主任・三浦町主任兼務 (天神主任継統)
- 山本 一郎 三井楽主任・貝津主任兼務 (木鉢主任)
- 中島 誠志 浦頭主任(三浦町主任)
- 一ノ瀬 輝幸 木鉢主任 (早岐主任)
- 大瀬 良直 太田尾主任 (三井楽主任)
- 竹内 英次 山田主任 (福岡教区 本渡・崎津・大江主任)
- 工藤 秀晃 浅子主任 (浦頭主任)
- 竹谷 誠 三ツ山主任・長与主任兼務 (三ツ山主任継統)
- 谷脇 誠一 日本カトリック神学院 (馬込主任)
- 岩下 裕志 奈留主任 (山田主任)
- 小島 明 燈台の聖母トラスピスト大修道院 (奈留主任)

- 稲田 伸也 滑石助任・教区書記官兼務 (大司教秘書・教区書記官)
- 青田 憲司 福江助任(太田尾主任)
- 稲田 祐馬 ローマ留学(福江助任)
- 洪 燦基 福江助任 (福江/新司祭)
- 廣田 学 浦上 (1) (新助祭)
- ▼派遣 (4月21日付 (2)は8月31日まで)
- 熊川 幸徳 光丘教会管理(2)
- (サン・スルピス司祭会、旧福岡カトリック神学院在任)
- 岩下 和樹 小郡・鳥栖主任 (茶山・糸島主任)
- ▼韓国殉教者聖職修道会(5月4日着任)
- 姜 昊勳 早岐主任 (滑石助任)

カトリックセンターから長崎大司教館へ移転した事務所

4月1日からの業務時間のご案内

- 【1階】**
- 総合受付 日～土曜日 毎日 08:00～18:00
電話 095-843-4188 (代表)
FAX 095-843-4322
- 法人事務所(会計事務室) 日曜日は休み
祝祭日も含む月～土曜日 08:30～17:30
電話 095-846-4248 FAX 095-848-8310
- 【2階】**
- 教区本部事務局・諸委員会 土・祝日は休み
日～金曜日 08:30～17:30
電話 095-842-4450 FAX 095-842-4460
- 生涯養成委員会 日・月・祝日は休み
火～土曜日 08:30～17:30
電話 095-841-7731 FAX 095-842-4460
- 広報委員会 土・日・祝日は休み
月～金曜日 08:30～17:30
電話 095-843-3869 FAX 095-842-4460

《住所》カトリック長崎大司教館内
〒852-8114 長崎市橋口町1番1号

※住所、ファックス番号は2025年2月1日から上記の通りとなっています。お間違いがないよう皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(2025年4月7日訂正)

日本には計り知れない豊かさがある

エミリオ・ナツパ大司教来崎



西坂で祈る(写真提供=日本二十六聖人記念館)

今年2月まで教皇庁宣
教事業の会長を務めてい
たエミリオ・ナツパ大司
教(バチカン市国行政庁
次官)が、日本の教会の
宣教の歴史や日本の文化
についての見識を深める
ために3月23日(日)～
26日(水)に来日し、長
崎と東京を訪問した。

ナツパ大司教は24日
(月)に来崎。空港到着時、
植松と水主町の両教会の
信者らの歓迎を受け、そ
の後、長崎市内へ。信者
らが迎える中、西坂公園
を訪れ、26聖人像の前で
皆で祈りをささげ、日本
二十六聖人記念館を見

入学 おめでとう

今春、長崎教区内にあ
る神学校・志願院に入学
した人は次の通り。新人
生、在校生の召命の歩み
のために祈りましょう。

◆長崎カトリック神学院
中学1年 上河慶祐 (浦上)
西村瑠綺 (大崎)
高校1年 田中尊流 (三浦町)

◆聖コルベ志願院
高校1年 東谷海斗 (札幌教区・名寄)

大司教館の館長交代

長崎大司教館の館長
は、この春の異動に伴い、
稲田伸也師(滑石助任・
教区書記官兼務)から交
代し、5月1日付で葛嶋
秀信師(教区本部事務局
長)が新たに兼務する。



長崎大司教館でナツパ大司教(中央)を囲んで撮影

公開された。教皇庁宣
教事業は「福音宣教省の中
にある組織で、特にその
目的は福音の告知と新し
い教会の創設」だとい
う。大司教は多くの殉教者
を輩出した日本の教会に
ついて、「キリスト者の
視点から見れば印象として
は、日本には計り知れない
豊かさがある」と語っ
ている。殉教は日本では
わずか100年ほど前
のことでもあり「つまり
証言者は大変若いのです
が、それでも証言を生き
生きと保つことがなけれ
ば失われる危険性があり
ます。物質主義や相対主
義が迫っていますから」
と、それでも希望のう
ちにあることを示した。

「カトリックジャパンニュース」4月1日からスタート

週刊「カトリック新聞」が今年3月30日付をもって休刊となり、4月1日からウェブサイトに「カトリックジャパンニュース(CJN)」がスタートした。スマートフォンやパソコンで、どなたでも無料で読むことができる(https://cnews.jp)。また、紙媒体の「カトリックジャパンダイジェスト(CJN・D)」が月1回、全国の教会、修道院、カトリック学校、カトリック施設に無償で配送される。

その他、教会外の方にカトリック教会を案内するためのポータル(入り口)となるウェブサイトを、「カトリックジャパンポータル(CJP)」も始まる予定。

新刊良書

★心のやさしい人になる！声に出して読む7歳からの聖書

著 齋藤孝



聖書のことばには、人
にやさしく、心豊かで、前
向きに生きさせる力があ
る。それを実感できる例
を挙げ、28箇所の新約聖
書の有名なことばを、親
しみやすい語り口で解
説。「自分もこれを生きて
みよう」というチャーレ
ンジ精神も養いながら、聖
書のことばを心に刻むこ
とができるように工夫し
た。女子パウロ会、税別
1500円。

★信じる力

著 齋藤孝



「どんなに迷っていても、一歩踏み出せば違う景色が見えてきます。この一歩に大きな意味があると信じて、足を前に出す。これが信じる力です。これが信じる力です。生きている力だと思ふのです。『はじめに』から自分の中の『信じる力』を呼び覚まし育んでいくためにどうしたらよいかを、古今東西の偉人や身近な例を挙げて多角的に解説。心の健康法、東洋の瞑想法、自己肯定感の高め方、本来もろい心を鍛える修行の数々などを紹介する。女子パウロ会、税別1300円。

2020年
被爆75年から
5年間のチャレンジ、
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

白蟻調査無料・駆除工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 大島和彦
(〒850-0811)長崎市矢の平1丁目14番15号
富長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

相続登記はお済みですか
土地・建物・会社・法人の登記手続 相続手続
遺言書の作成 相続土地の国庫帰属手続 など
まずは、お電話を!!

司法書士 行政書士 山下 緑 事務所

ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21 電話 0957-22-6177

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ドミニコ 溝口 悦雄
〒858-0926 佐世保市大湯町511番地3
TEL(0956)47-4380

世界平和へ祈りを...

明治石材

業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻

長崎本店 長崎市城栄町13-1
大村店 大村市赤佐古町287番地
HP http://meijisekizai.shopinfo.jp

電話 (095)846-3598
電話 (0957)50-3008

2025 聖年 子どもの集い

スタッフら合わせ約700人
全7地区から参加



キーワード探しの後のミサで、(すへてをみちひかれる)神とともに参加者が笑顔で記念撮影(4月2日浦上教会)

2025 聖年を過ごすにあたり、教区信仰教育委員会と召命委員会、その他の諸委員会は互いに協力して小中学生(旧学年)が参加する「子どもの集い」を企画・主催し、4月2日(水)に実施した。長崎教区の全7地区41教会から小学生300人余と中学生80人余、また、保護者とカテキスタ、司祭、修道者、スタッフら合わせて総勢約700人が長崎の浦上地区に集まった。

この集いは、子どもたちが迫害と原爆の被害を受けた浦上の歴史を知るとともに、どのようなときにも「いつともない」で導いてくださる「神がいることを学ぶ機会となる」と願って企画したもの。

当日は9時30分から地区ごとに場所を分けて受付とオリエンテーション。子どもたちと保護者、カテキスタらは、10時から平和公園と浦上教会の二手に分かれ「キーワード探し」をスタート。浦上教会の祭壇や被爆マリヤ小聖堂、教会敷地と周辺の被爆遺構、「信仰の礎」や浦上四番崩れによる流配の記念碑、信徒発見150周年記念のレリーフ、如己堂など計10カ所を約2時間かけて徒歩で巡礼し、各場所でもキーワードを受け取って10文字の言葉を完成させた。

その後は昼食と休憩をとって、13時から浦上教会でゆるしの秘跡と祈りの時間をもった。集いの締めくくりとして中村倫明大司教の司式によるミサが行われ、ミサの終わりに参加者がそれぞれ持つ十字架を大司教が祝福し、15時過ぎに閉祭。参加者、スタッフ、協力者は互いに拍手を送り合い、子どもたちは祝



如己堂

福してもらった自分の十字架を持ち、解散した。今回のように全地区から子どもたちが集まる行事は近年では見られなかった。無事に集いを終え、教区信仰教育委員長

「訪問先や会場のあちこちで、多くの助け合いがあった」と伺っています。参加した約400人の子どものうち、小学校と中学校の数は全部で何校あったでしょう。違いは

の中島誠志神父は次のように話した。

★子どもたちの感想
(申込時の学年を表記)
川尻心陽さん(小6)
私は、子どもの集いに参加して、大切なことを学びました。その中でもとくに印象に残ったことが二つあります。一つ目は、永井隆さんです。理由は、妻を敵の爆弾で亡くし、自分は白血病で子どもたちとたたみ二畳の部屋で暮らしながら世界に平和の尊さを広めた、すごい人物のことが詳しく知れて、勉強

二つ目は、浦上天堂の(鐘楼の)屋根のことです。直径5m、重さ約50kgの屋根が爆弾の爆風で飛ばされていたから、私の想像以上に、熱と爆風がとてつもないことが分かりました。なので印象に残りました。このような経験を生きかして、この子どもの集いに来れなかった人たちに教えてあげていきたいと思いました。

★水ノ浦教会
岡本貴龍さん(中2)
原爆投下によって、ほぼ原形を留めぬまでに破壊された浦上教会の被爆資料にふれ、原爆は人や物だけでなく、長崎の文化まで奪ってしまったのだと知り、改めて原爆の恐ろしさを、平和な日常のありがたさを感じた。そして、どんな困難でも希望を持って立ち上がってきた人々には、いつもともに神さまがいてくれたのだと感じることができて、参加して良かった。



浦上の原爆遺物展示室

あるけれど私たちが一つになさったその方は、すべてを導かれる神様です。心の耳を傾ける参加者や奉仕者に語りかけ、導き、仕上げられた神様の仕事の1日を見ているようでした。今回の集いで寄せられたイエス様へのお家のどこにありますが、

手紙にも、子どもたちや保護者の皆様から、イエス様にお話したい内容がずばらお話しいたうれしいです。長崎、浦上の歴史にはよい良い方へ導かれる神様の足跡があります。浦上の祭壇で大司教から祝福を受けた十字架のイエス様は、今、お家のどこにありますが、

事前準備や当日、さまざまな形で協力してくださったすべての皆様、施設をお貸しくださった信愛幼稚園様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

子どもや保護者のために祈り続けた人だった。葬儀ミサ・告別式は3月24日、浦頭教会で行われた。

2024年度 第3回 司祭評議会

3月17日(月)10時から大司教館で行われた。承認事項は以下の通り。

① 2025年度の教区司祭黙想会

カトリックセンターの閉館に伴い、収容人数の都合上、2025年度は全員一同参加ではなく、複数回に分けて行う。

② トピア会規程

2016年の顧問会において、引退後の司祭施設に関する審議がなされ「プロジェクト

チーム」が立ち上がり「トピア会」と名付けられた。今回トピア会の目的や活動内容などを定めた「トピア会規程」(案)が提出され、名称を「引退司祭生活支援委員会」とすることを承認された。規程案については同委員会ですらに精査する。

③ 教区司祭の年金保険規約改訂
2005年に発効した長崎教区司祭の「年金保険規約」(改訂案)が承認された。この制度は1976年に宣教師の高齢司祭の福利のために始まり、その事業はその後各教区に移譲されていた。

④ カトリック長崎大司教館および公用車の利用内規
大司教館の会議室と教区本部作業室、そして教区所有のトラック・マイクローバス(以上は法人事務所管理)・大司教館の宿泊(大司教館内部での管理)・体育館の利用(神学院の管理)の利用について内規案が承認された。

第4回 教区顧問会

3月17日(月)13時から大司教館で行われた。承認された事項は以下の通り。

① 2025年度年間運用計画案
同計画案は、教区経済問題評議会での審議を経て、顧問会で承認された。

② 2025年度収支予算書案
同予算書案は、教区経済問題評議会での審議を経て、顧問会で承認された。

③ 神ノ島教会聖堂の空調設備入替工事
2005年に設置されていた聖堂内の空調設備は、耐用年数を超えたため、空調設備入替工事許可申請が出され承認された。

④ 旧鯛之浦教会の修復(改修)工事
長崎県と新上五島町からの補助を受けて2024年7月から工事が始まり、今年3月に終了した。

⑤ 浦上教会パイプオルガン
浦上教会パイプオルガンの維持費について、数年ごとの大規模メン

同予算書案が承認された。教区法人事務所では調整する、ということが報告された。

⑥ 司祭の人事異動公表時期
2026年から、長崎教区の司祭人事異動の公表日を早め、2月とすることが承認された。

また、この顧問会の場で、永井隆・緑夫妻の列福列聖調査準備に関する報告が「永井隆と緑の友の会」会長のガブリエレ・デイ・コミテ氏からあった。パチカンの列福列聖省の指針に従って、どのような手順で調査が必要かが説明された。

3月22日逝去。97歳。1927年五島市生まれ。61年初誓願、76年終生誓願。入会后、看護師と保育士の資格を生かし、奉仕の大半を児童養護施設と浦上教会の子どもの養育に携わった。一時期、西海市まごご保育園で園長を務めたが、その後再び、奥浦慈恵院の責任者として働いた。晩年は入退院を繰り返し、約5年病床で言語と身体の不自由をささげた。正義感が強く、

子どもや保護者のために祈り続けた人だった。葬儀ミサ・告別式は3月24日、浦頭教会で行われた。

テレジア
濱崎キクエ修道女
(お告げのマリア修道会)

感謝
一 寄付
長崎カトリック神学院
● 鶴巻菊子様(神ノ島)
一 香典返し
長崎大司教館
● 橋口司様(出津)
● 故マリア橋口キメ様
長崎カトリック神学院
● 山田研治様(浦上)
● 故テレジア山田益代様
右の方々から寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

水浦運送

シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)49847-7151
携帯 090-7923-9005

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

貨物保険有り
● 一般引越
● 荒ゴミ捨て
● 学生引越

● 小荷物
● 荷物
● 遠距離

医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也
通所リハビリテーション
上野町グループホーム・サービス付き高齢者住宅
長崎市上野町1-5 TEL 095-845-6175

内科・循環器科

カリス通信

「カトリック信徒傷害見舞金制度」のご紹介

5月号

カリスでは、教会の皆様を対象に「カトリック信徒傷害見舞金制度」をご案内しております。教会には、信徒の皆様は勿論、一般の施設利用者、訪問者など多くの方が訪れます。本制度は、教会の福音宣教活動を支援するため、教会施設内で生じた事故により、ケガをした教会施設利用者(当該教会の神父・助祭、有給の教会事務職員、清掃・修繕業者等を除く)への見舞金等をお支払いする制度です。

＜見舞金の対象となる教会施設内で行う行事の例＞

- ミサ・典礼: ミサ、洗礼式、堅信式、結婚式、叙階式、復活祭等
- 例会: 黙想会、聖書研究会、祈りの会等
- 行事・催事: パザー、祝賀会、歓送迎会、研修会、クリスマス会、七五三、成人式、セミナー、ボーイ&ガールスカウト活動等

＜お支払いする見舞金の種類＞

- ① 被災者対応費用
- ② 被災者傷害見舞費用および傷害見舞費用

小教区単位でご加入いただけます。現在、約500の教会が加入されています。本制度は毎年6月1日補償開始(中途加入も可能)です。5月に全ての教会に制度のご案内をお送りしております。

※本ご案内は「レジャー・サービス施設費用保険」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、パンフレットおよび各保険の「重要事項説明書」をよくお読みください。

私たちが、大澤阿紀子 大西 見 毛利玲子
お守りします。 服部秀昭 川口 兼神父(顧問)

カトリック共済システム 株式会社カリス 連絡先 ☎ 0120-77-0033

カトリック共済システム 検索 24TC-007899 (2025年3月作成)
引受保険会社: 東京海上日動火災保険株式会社

リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください